

科目名	現代社会と福祉		
授業形態	講義	学年	1
開講時期	2023年度 後期	単位数	2
担当教員	渡部 淳		
内容および計画	<p>社会人として現代社会を生きる上では様々な社会問題と関わることになる。それは福祉に関する職業にたかなくても、である。自分自身や家族のライフステージ上の課題、また、労働環境、経済、社会構造などからくるストレスに対応する場合、「福祉」の視点で考えることは有効である。「福祉」は特別な対象者のためのものではなく、誰もが自分らしく幸福を追求していくための視点である。そのために自分がしてもらいたいのはどんなことか、自分が社会の一員として役割を担うとしたらどんなことか、象徴的なテーマを設定し考えていく。</p>		
1	<p>精神科病院の社会的入院の解消 世界的にも極めて異例の状況である精神科長期社会的入院の実状を理解し、差別偏見や障がいゆえの生きづらさを超えて、障害の種類や有無にかかわらず暮らしやすい地域にしておくことの大切さを理解し、社会の一員としての振舞い方を自覚できる。</p>		
2	<p>入所施設からの地域移行 入所施設で生活する方々がどんな障害を持っているのかを理解し、なぜ施設生活を選択したのか、そのほかの選択肢がなかったのか、そこにはどんな視点が足りなかったのか、そして今、大型施設の解体が求められ、入所施設以外の選択肢をどのように増やし、選択できるようにしていくかを考える。重度の障害を持つ方々にとっての自己決定の在り方を改めて考えることで、誰にとっても必要な視点を持つことができる。</p>		
3	<p>親亡き後 「8050」といわれる高齢の親が何らかの障害を持つ子の面倒を見てきたが限界が近づいている状況を理解する。自分でできる限り面倒みたいという親の気持ち、自分が亡くなった後の心配を理解し、そのために親は、本人は、地域は今何ができるか、何をせねばならないかを考えることができる。</p>		
4	<p>虐待 虐待の様々な状況を理解する。特に障がい者の虐待の場合、その背景には、単純に「悪」や「やめさせるべきこと」として割り切れない状況があり、それゆえに対応も難しいことを理解する。そのうえで、守られねばならない「人権」を理解し、守るために何ができるか、すべきかを考える。「障がい者の虐待」だけでなく、我々自身の中にある「虐待してしまうかもしれない心」と「通報しにくい心」にも気づく。 ヤングケアラー等関連課題も一緒に考え、立場の弱い方々の置かれている状況と求められる社会の在り方を考えることで社会の一員としての振舞い方を自覚できる。</p>		
5	<p>触法行為 障がい者が触法行為をしてしまう状況についての理解をし、司法、医療、福祉の現状から対応の難しさと取り組みの重要性を理解できる。犯した犯罪の種類、程度や障がいの状況による関わり方の違いについての理解をし、障がい者だけでなく、高齢者や若年者の状況を理解し、差別や偏見の払しょくを図るとともに自分に関わる場合の振舞い方を自覚できるようになる。</p>		
6	<p>災害時支援 様々な災害の時に自分がどう対処するかを考え、障がいによってはどんな支援が必要になるか考える。障害による困難な状況を具体的に学び、地域や行政の支援体制、避難所での支援の実状を理解し、求められる支援の在り方を考える。被災者でありながらも、支援する側になる必要性や覚悟を持つ。「平時にできないことは有事にもできない」ので、平時に何をしておくべきかを考え、自覚できるようになる。</p>		
7	<p>働くという自己実現 障害の種類や有無にかかわらず誰にとっても必要な「なんのために働くのか」を考える。仕事のやりがいや評価としての賃金、収入源としての賃金などについて自分自身のこととして考える。自分に思うような職業に就く能力がない場合はどうするか、どうしてほしいかについても考える。福祉的就労の現状を理解し、働かないという選択をした場合の生活や自己実現の在り方についても考える。これらによって自己実現としての「働くこと」を社会の一員として考え、充実した地域にするための振舞い方ができるようになる。</p>		
8	<p>ライフステージ① 産むこと、生まれること、そこでのリスクや障害の可能性、そこでの障害の受容の難しさ、支援者の関わり方について理解し、自分のこととして考える。 「こうのとりのゆりかご」「出生前診断」「旧優生保護法」、「福祉事業所での避妊手術指導」などを例にとって考え、望ましい社会の在り方を考えことができるようになる。</p>		
9	<p>ライフステージ② 学齢期における様々な課題を考え、ライフステージ上の前後の課題へのつながりを考える。特別支援教育の</p>		

	現状や進路指導の現状を学び、インクルージョン教育と本人に合った環境での支援の在り方を考え、発達と成長のための望ましい社会の在り方を考えられるようになる。
10	ライフステージ③ 社会人としての様々なライフイベントにどんな課題があるか、障害の有無にかかわらず考え、自分の生き方を見つけることの大切さを考える。お金の使い方、いじめやハラスメントへの対応、職業選択や転職の決断、結婚や出産の選択などを例にして考え、多様な価値観、生き方について考えることができるようになる。
11	ライフステージ④ 人生の終末期の課題を考える。「生老病死」「死の受容」「ターミナルケア」「緩和ケア」などを例に取り上げ、どう死ぬかはどう生きるかであることを自覚できるようになる。
12	施設コンフリクト 身近な例として、「空港、ダム」「ゴミステーション」「障がい者施設」などによる地域でのコンフリクトについて考える。問題が起きないようにするのではなく、起きるのが当たり前、起きてみんまで折り合いをつけられるようになる社会を作っていく必要がある。そのためには信頼できる協議の場（人）が必要であり、成功体験を積み上げていく必要がある。そういう社会の実現のために自分はどう振舞っていくべきかを考えられるようになる。
13	地域包括ケアシステム 少子高齢社会、市町村合併、介護力不足等「自助」「互助」「共助」「丸ごと我がこと」が求められる社会背景を理解し、町内会の役割、企業の社会貢献なども含め社会の一員としての振舞い方を災害時支援体制や「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」を例にして考え、自覚できるようになる。
14	自己覚知① 自分の価値観、偏見に気づく。今までの生活の振り返りから自分の行動パターンに気づく。好き嫌いや評価基準、様々なケースに対する対応から自己覚知を深める。
15	自己覚知② 今まで自分に影響を与えた出来事、存在、社会現象や社会問題について、自分の考えをまとめてみる。今の自分の得意不得意や傾向、価値観などの個性を自覚し、自分にとっての自己実現がどういうものなのかを自覚する。それによって他者の自己実現も理解できるようになる。 自分の感情に気づき、整理し、言葉にし、伝えることが、仕事をするうえで、そして社会人として最も大切なスキルであることを自覚しできるようになる。

教科書

タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年

教科書は使用しません。

参考書

成績評価

評価方法	割合(%)
社会問題を表面的な現象だけでなくどれだけ掘り下げることができているか。	50
社会問題に対する自分の思いや感情を顕在化させ、意見を整理し、言語化できているか。	50

学習到達目標	<p>社会現象や社会問題についてどう考えるかを通して自己覚知を深め、これから社会人としてどのような自己実現を図っていくかを自覚できるようになる。</p> <p>自分の感情に気づき、整理し、言葉にし、伝えることが、仕事をするうえで、そして社会人として最も大切なスキルであることを自覚しできるようになる。</p>
先修条件	
実務経験	
その他	